

今月のトピック

政治

- ◆デンコフ首相・年初の国民との対話
- ◆道上大使のポリソフ国民議会外交委員長(第1党・GERB党首)との会談

経済

- ◆ブルガリア・観光業界の最近の動き
- ◆道上大使と主要閣僚との会談
- ◆道上大使とヴァルナ市長との会談

その他

- ◆東京五輪・ブルガリア新体操金メダルチームに関するドキュメンタリー放映

※月報は、ブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

※月報の個別メール配信を希望される方は、当館メールアドレス(emb-jp-bg@sf.mofa.go.jp)まで御連絡下さい。

政治

◆デンコフ首相・年初の国民との対話

- ▶2024年(令和6年)1月10日、デンコフ首相は、就任後定例でFacebook上でライブ実施している国民からの質問へのインタビュー形式での対話を行った。
- ▶その中で、デンコフ首相は、まず3月に予定される首相及び閣僚の交代に関し、組閣時の合意においては「デンコフ首相とガブリエル副首相兼外相が合意する」ことのみが交代条件であると明確に述べた上で、組閣時にCC-DBとGERBとで合意された政府プログラムは少なくとも18か月のスパンを対象にしているため、閣僚は基本的には継続することが望ましいとの姿勢を示した。
- ▶また、政府としては、本年中に、4年間のマנדート終了時(2027年4月まで)の政策案を人口減少対策等について打ち出したとも表明した。
- ▶デンコフ首相は、本年も政府がシェンゲン加盟、ユーロ加盟及びOECD加盟について優先施策としてまい進していくとするとともに、直近の欧州域内社会調査(ユーロバロメーター)においてブルガリアは既にEU内で最安価な労働力の国ではなくなっており、今後のブルガリア経済の成長に向け、外国投資を誘致して国内に一層の雇用を生み出したいとの目標を示した。

◆道上大使のポリソフ国民議会外交委員長(第1党・GERB党首)との会談

- ▶2024年(令和6年)1月18日、道上大使は、ポリソフGERB党首・国会外交委員長(元首相)を表敬した。ポリソフ党首は、安倍総理との会談(2018年)、自身の訪日、更にはそれ以前にソフィア市長としても携



わった円借款「ソフィア市地下鉄拡張計画」(2009年完工)などに言及しつつ、道上大使の着任に際して日本に対する温かい言葉を述べた。

- ▶道上大使は、日・ブルガリア間の伝統的な友好関係を大切にしつつ、厳しさを増す国際情勢の中で、今後、両国関係を再活性化したい旨述べた。
- ▶双方は、日・ブルガリア間で政治、IT・AIを始めとする経済や文化含め、両国関係の一層の促進に向け、緊密に連携していくことで一致した。

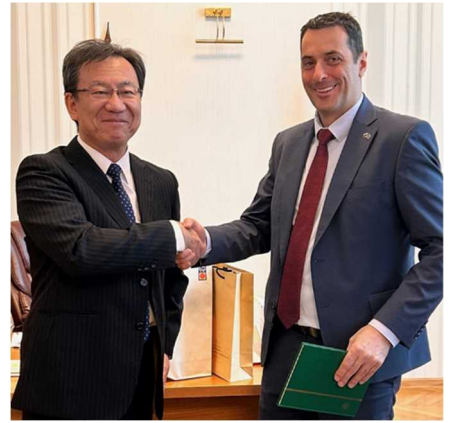
経 済

◆ブルガリア・観光業界の最近の動き

- ▶2023年12月、ブルガリア人の海外旅行件数(アウトバウンド)が前年同月比7.3%増の64万9100件であったと、国家統計局(NSI)が発表した。同月の外国人ブルガリア訪問者数(インバウンド)も年間ベースで前年を上回り、パンデミック前である2019年の結果をも上回った。
- ▶2023年12月のデータによる、ブルガリアからのアウトバウンドの主な旅行先と人数は以下の通り(単位:人)
トルコ(173,700) ギリシャ(119,100) ルーマニア(62,500) セルビア(59,400)
ドイツ(42,100) 北マケドニア(25,700) オーストリア(21,900) イタリア(20,600)
- ▶また、インバウンドでは、EU国籍者のブルガリア訪問が全体の訪問者数のうちの52.8%、41万4,600人に達した。主な国からの訪問者数は以下の通り。(単位:人)
トルコ(162,000) ルーマニア(158,300) ギリシャ(126,100) ウクライナ(52,300)
セルビア(42,300) ドイツ(34,500) 北マケドニア(34,300) イタリア(22,200)
- ▶ザリツァ・ディンコヴァ観光大臣は、12月のブルガリアのウィンターリゾートへの観光客数が前年比4.5%以上増加したことを明らかにした。最も増加したのはトルコ人観光客(前年比+22%)で、近隣諸国(ルーマニア、北マケドニア、セルビア、ギリシャ)からの観光客も増加した。また、ディンコヴァ大臣は2024年のサマーシーズンについて、起こりうる問題を予測し、タイムリーに解決するため、地域開発・公共事業省、保健省、環境・水資源省等の大臣と部門横断的な会合を持つことを計画していると述べた。
- ▶1月30日、ソフィア・マリネラホテルにおいて「ブランド・ブルガリア2024」と題したイベントが開催された。この目的は、文化遺産と自然遺産に加え、スパ、ワイン、グルメ、アドベンチャーなど、世界的に需要の高い観光テーマをブルガリアでどう発展させていくか観光省、文化省が部門横断的にディスカッションすることであり、スタンダード紙、ブルガリア産業協会、UNWTO等の共催で開催された。ディスカッションでは観光振興を通じたブルガリアの地域発展に関する議論がなされ、多方面から多くの意見が出された。

◆道上大使と主要閣僚との会談

▶1月11日、道上尚史大使とゲオルギー・グヴォズディコフ運輸相との会談で、ブルガリアと日本の輸送セキュリティとハイテク開発分野での協力が話し合われた。グヴォズディコフ大臣は、1月2日に羽田空港で発生した航空機衝突事故の件に触れ、炎上する飛行機から370人以上の乗客を救出した事故は、避難手順の規律と厳格な実施の例として歴史に残るであろうと述べた。また、それに対して道上大使は、安全性は日米両国が他の交通分野でも経験を共有できるテーマであると付け加えた。その一例として、道上大使は、日本で新幹線が利用されるようになってから60年間、死傷者が出た事故がゼロであることを紹介した。



グヴォズディコフ大臣は、「セキュリティだけでなく、ハイテク技術の開発は政府全体が積極的に取り組んでいる優先事項である」と話し、ブルガリアがこの分野で大きな人的ポテンシャルを持っている旨を伝えた。また、「日本の豊富な経験は、交通に関連するより多くのプロジェクトにおいて、卓越した技術に到達するための鍵となる」と述べた。

▶1月23日、道上尚史大使はアッセン・ヴァシレフ財務大臣と会談した。両首脳は、両国間の商業・経済協力を拡大する機会について議論した。

ヴァシレフ大臣は、ブルガリアには道路・鉄道インフラの建設・再建のための大規模プロジェクトがいくつかあると指摘し、日本企業の参加を歓迎すると述べた。ヴァシレフ大臣は、ブルガリアと日本が水力発電分野で伝統的に良好な協力関係を築いてきたことに触れ、関係が今後も継続することに期待を表明した。また、日本企業がブルガリアの新たな原子力施設の建設に参加する機会もあったことにも触れた。



道上大使は、科学分野における両国間の良好な協力関係、その継続への期待を表明した。両国間には投資拡大の大きなポテンシャルがあり、それを実現するため、ブルガリア側が日本企業に対して積極的にプレゼンテーションすべき旨を述べた。

◆道上大使とヴァルナ市長との会談

▶1月12日、ブラゴミール・コツェフヴァルナ市長は、道上尚史在ブルガリア日本国大使と会談した。コツェフ市長は会談の中で「両国は文化交流を深めるべきだ」と述べ、良好な国際関係を持続させる交流として、経済、文化、スポーツ等の例を挙げた。

道上大使は、日本とブルガリアは、持続可能な成長のために人的資源に頼っている点で似ていると指摘した。ビジネス面での両国関係の例として、ヴァルナにある Stargate



Bulgaria が川崎汽船と共同で、自動車運搬船を管理するための新事務所を開設したことに触れ

た。これに対し、コツェフ市長は、ブルガリア人船員のレベルの高さ、卓越したプロ意識を強調し、この基盤がより両国関係を発展させるであろうと述べた。

その他

◆東京五輪・ブルガリア新体操金メダルチームに関するドキュメンタリー試写会及び一般放映開始

▶1月16日、ブルガリア大手民放bTVの作成したブルガリア新体操チームが東京五輪で金メダルを獲得するまでを描いたドキュメンタリー「The Way」の試写会が国立劇場イヴァン・ヴァゾフで行われ、ラデフ大統領、青年・スポーツ大臣、道上大使らが出席した。bTV地上波での放映は1月20日から全8回。

▶新型コロナウイルスの世界的流行という事態の中での開催となった五輪に臨むブルガリア人選手らの緊張感、試合における演技とこれに臨む精神状態等を描いたドキュメンタリーとなっている。

▶日本については、ブルガリア新体操チームを迎えた千葉県市川市や山形県村山市との交流の様様、東京五輪期間中の選手村の様子等が丁寧に描かれている。



指標	
GDP 成長率(年率予測:最新値) ※EC データ	24 年:1.8% 25 年:2.6%
消費者物価指数(11 月) ※ブルガリア統計局データ	+0.3%(前月比) +5.4%(前年同月比)
失業率(11 月) ※ブルガリア労働省	5.5%(前月比±0%)
公的債務残高/GDP(含む国および地方:11 月)	21.8%(前月比 +2.4%)

※ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行HPよりご覧になれます
(<https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=EN>)。